日刊 動労千葉

82・3・31

No. 1006

国鉄千葉動力車労働組合
千葉市要町二一－八（動力車会館）
（鉄電）二九三五～六・（公衆）〇四七二（22）七二〇七

三里塚・ジェット闘争貫徹！「国鉄35万人体制」粉砕！

3.28三里塚集会、1万4千余の大結集で高揚

反対同盟「話し合い」路線を根絶し、強力な新体制で二期阻止へ前進

満を持して闘いぬいてきた、三・二八三里塚現地総決起集会は、ついに敵権力にとって最も恐れる事態となって爆発し、圧倒的成功をかちとった。

全国から、一万四千三百名という闘う労働者・農民・学生・市民等々の空前の大隊列が結集し、政府・空港公団の「反対同盟切り崩し＝二期着工」のはかない願望に決定的な大打撃をあびせたのである。

さらに注目すべきことは、わが動労千葉二二〇名の隊列を先頭として、全金本山労組が組合員の五割動員をかちとって仙台よりかけつける等をはじめとして、「三里塚・反合を基軸に闘う労働運動」をになう労働者の隊列（労組連の隊列）が、権力・資本のみならず既成指導部や革マル反動分子の弾圧・妨害をけって、ついに二六〇〇名もの大部隊として堂々と登場したことである。

八〇年代勝利への巨歩きづいた3・28

三・二八闘争の大成功は、二期決戦勝利の展望をさし示したと同時に、八〇年代の日本階級闘争の進路に鮮明な方向づけを与えた。すなわち、重大な試練をのりこえ、強固な新指導体制をうち固めた三里塚芝山連合空港反対同盟を軸に、フランス・ラルザック軍事基地拡張反対同盟代表、西ドイツ・フランクフルト空港西滑走路拡張反対市民・労働者代表も、はるばる大挙参加し、まさに国際連帯三里塚闘争として歴史的勝利をかちとり、全日本－全世界の反戦・反核・反基地のあらゆる人々の連帯・共闘の結集軸をうち立てたことである。

「話し合い路線」の根を絶ち、強力な新指導体制を確立した反対同盟

三・二八闘争の大成功は、次のところに示されている。

第一に、この間の敵＝政府・公団による「話し合い」路線＝同盟解体の攻撃をもののみごとに粉砕して、二期決戦勝利への強固な陣形をうち固めたことである。

反対同盟の基本路線から逸脱して、「話し合い」による屈服と敗北の道に転落した石橋・内田の両幹部を役職から解任（本年二月）した反対同盟は、三月二〇日の役員会で、敷地内農民を中心軸にすえた全員合議制の新指導体制を、一まわりも二まわりも拡大強化して確立したことが発表された。この事実は、全国の闘う人民に限りない激励を与えたと同時に、「話し合い」路線の糸口がもはや完全に断たれた事を示すものであり、敵＝政府・公団は致命的大打撃をうけて、更に追いつめられたのである。

反戦・反核闘争の牽引車＝三里塚

第二に、世界・日本をとりまく情勢が、核戦争をもはらんだ世界戦争への危機の中にあって、三里塚闘争が、このまき起りつつある全世界の反戦・反核・反軍事空港の闘いの最強の砦として先頭で闘うことを宣言した事である。

世界各地で二〇万、三〇万という大規模な反戦・反核闘争がまき起り、日本においても三月二十一日には、広島二〇万人大集会が勝ちとられている。三里塚闘争での勝利と結合－合流したときはじめて、この闘いは真に勝利する事ができる。

三・二八集会の基調報告は、具体的方針として次の二点の行動方針を提起した。すなわち、

①五月二十三日、反戦・反核、東京三〇万人大集会の最先頭に、反対同盟と三里塚を闘う勢力が起って牽引すること。

②その力との大合流をもって、七月四日更に大規模な三里塚現地大闘争をかちとり、二期攻撃を粉砕する。

われわれは、この提起に全力で応えようではないか。

たくましく登場した労働者隊列

第三に、日本の労働運動の戦闘的再生をかちとるため、「三里塚・反合を基軸に闘う労働運動」が、すばらしい前進をとげ、前回に倍する二千六百名の隊列を実現したことである。更に強化し、万余の隊列を創り出していこう。

全人民の敵＝革マル反動分子の一掃を！

三・二八闘争が勝ちとった第四の成果は、ついに公然と敵＝政府・公団と一体となって反対同盟の解体のための謀略文書・デマビラ・ドーカツ電話等々の卑劣な攻撃を全面化させた革マル派を、反対同盟と全参加者は、煮えたぎる怒りをこめて弾劾し、改めて必要不可欠の重要課題として、全国全戦線からの追放・一掃を全参加者が確認し、集会の名において決議されたことである。

国鉄戦線においても、露骨な当局の先兵＝国鉄労働者の決起をおさえつけてまわっている鉄労以下のファシスト分子を怒りも新たに粉砕・一掃していこう。

「ヤミ・カラ」攻撃粉砕し、三里塚＝国鉄で勝利しよう！

2200名の隊列で労働者隊列2600の先頭に立つ動労千葉。

全組合員・家族の強固な団結で組織破壊攻撃を粉砕せよ！